

## 令和4年度 事業報告

少子高齢化が進む中で、国においては「人生100年時代」を見据え、高齢者から若者まで、全ての国民に活躍の場があり、全ての人々が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことができる社会の実現に向け各省庁において取組みを始めています。

厚生労働省では、生涯現役社会の実現に向けて「企業における高齢者雇用の拡大」「地域における多様な雇用・就業機会の確保」「企業や高齢者を支えるための支援」の3つの柱で施策を講じていますが、高齢化社会を支える役割を担うシルバー人材センターは、国や厚生労働省の施策とは別に、新型コロナウイルス感染症の影響や高齢化に伴う会員が担える業務の減少、企業の定年延長や廃止等を要因のひとつとした入会者の減少、インボイス制度導入など運営は難しい局面にあります。

さて、令和4年度では事務費率を「7パーセント」から「10パーセント」に改定し、「3パーセント」の引き上げを行い経営状況の改善を図りました。

また、「第2期中期計画」の2年目となる本年度は、組織活動・会員活動を支援する事務局の体制強化に向け、規定の改正による業務内容の確認や会員募集の方法の検討、組織市町村・関係機関との連携強化に向けて積極的な取組みを行いました。

また、本年10月に導入される「インボイス制度」につきましては、契約上で発生する消費税をシルバーが負担することとなるため、その財源措置や会員への周知方法について年度当初から検討を始め、全シ協・県連合会を含め関連情報の収集や県内各シルバーの対応などを参考に、消費税の軽減措置期間（導入後3年間は8割・3年後から3年間は5割軽減）や本年度事務費率を改定したことを考慮し、会員への負担増加は避けることを前提に収支シュミレーションを行い、当面（令和5・6年度）は現状の事務費率を継続し対応することとしました。

なお、「インボイス制度」につきましては、他業種（フリーランスや建設関連等）への影響も大きいため今後の動向を注視してまいります。

令和4年度の業務実績を見ると、請負の契約金額は、約2億9千4百万円で前年度より約271万円の増となりました。また、派遣の契約金額では、約4千8百万円で前年比約371万円の増となり、請負と派遣の合計金額では、約3億4千2百万円となりましたが、請負の受注件数は2,005件で高齢化等から外仕事（草刈り・草取り・剪定）などは、受注できないケースも発生している状況から前年比292件の減でありました。

安全就業につきましては「事故ゼロ」を重点目標の第一に掲げて取り組んでまいりましたが、今年度7件の事故が発生し、前年度6件から比較すると1件の増でありました。

クレームは4件発生していますので、本年度事故やクレームが発生した場合においては、事務局と委員会が情報共有し組織で対応していくため「業務上のトラブル・事故等基本対応フローチャート」を作成しフローチャートに沿った対応を行っています。

また、広報委員会では会報を通じ注意喚起のための記事を掲載するなど、再発防止に努めています。

以下、令和4年度の主な事業を報告いたします。

## 主な業務実績

* 事業受注件数	請負	2,005件	前年比 ▲	292件
	派遣	34件	前年比 +	6件
* 契約金額	請負	294,124千円	前年比 +	0.9%
	派遣	47,920千円	前年比 +	8.4%
* 会員数（3月31日現在）		598人	前年比 ▲	37人

## 主な事業報告

### ○総会

令和4年度定時総会を5月31日（火）、ゆいわく茅野で開催しました。  
出席者29名、委任状511名、合計540名

- 1) 令和3年度事業報告の承認について
- 2) 令和3年度決算の承認について  
監査報告
- 3) 役員を選任について  
以上が提案され、全て原案どおり承認されました。  
報告事項は次のとおりです。
- 4) 令和3年度補正予算の報告について
- 5) 令和4年度事業計画の報告について
- 6) 令和4年度収支予算の報告について

### ○理事会

令和4年度は9回の理事会を開催しました。事業等の実施状況報告、正会員の入会承認、適正就業と会員確保、シルバー派遣事業への対応等、センターの運営全般の基本的事項に関することなどを審議、協議いたしました。

### ○監査会

監事には、令和4年10月に4月から9月までの上半期の監査をして頂きました。また、令和5年4月には定時総会に提案する令和4年度事業報告、決算について監査を実施して頂き、適正な執行であると認めて頂きました。また、理事会に出席し、事業執行について意見を述べていただきました。

## ○専門委員会事業報告

### 1. 総務委員会

新型コロナウイルス感染症の影響により、各種事業の縮小や中止を余儀なくされました。定時総会は、感染予防のため委任状での議決権行使をお願いし、参加者29名、委任状511名と参加者を絞って開催いたしました。

#### (1) 組織市町村首長との懇談会

- ・10月、11月に茅野市・富士見町・原村において市町村長との懇談会を実施し、助成金の継続及び就業先の継続と拡大について協力を要請しました。  
また、令和5年度から導入される適格請求書等保存方式（インボイス制度）のシルバーへの影響について理解いただくと共に支援をお願いしました。

#### (2) 地域班活動の活性化に向けた取組み

- ・コロナ禍により地域班長会議及び合同地域班会議を中止しました。  
中間事業報告及びセンターの課題を地域班長経由で全会員にお知らせしました。
- ・現在の会員状況や社会状況にマッチした地域班活動のあり方について検討を開始し、次年度への継続課題といたしました。

#### (3) 生涯現役に向けた研修会等の実施

- ・健康づくりに向け「からだの衰え度チェック」を開催しました。  
からだの衰え度チェック（9月）・・・参加者 17名
- ・『交通安全イベント』を茅野警察署の協力を得て実施し、サポートカーや交通安全教育車（チャレンジ号）等の体験を通じ、交通安全に対する認識を高めました。  
交通安全イベント（9月）・・・参加者 26名

※総務委員会では、「健康第一・生涯現役」に向け、健康づくりや交通安全のイベントを継続開催して参ります。

#### (4) インボイス制度導入への対応について

- ・導入後のシルバーへの影響を検討した結果、会員の皆さんの配分金に影響を及ぼさないよう運営を行っていくこととしました。  
ただし、大きな制度変更であり、今後の状況によっては会員の皆さんにご協力をお願いする可能性があります。
- ・3月に事業状況報告と共に前述の内容をお知らせしました。

#### (5) ITを活用した情報共有の仕組みづくり

- ・SMSサービスを活用し会議通知等の情報発信を開始しました。次年度ではシステムの導入やホームページ、スマートファンの活用を更に推し進めてまいります。

### 2. 就業委員会

#### (1) 会員増強への取組み

- ・令和4年度会員目標数 649名 ⇒ 実績会員数 598名 ▲51名 前年比▲37名  
入会者数 50名 内会員紹介12名

退会者数 87名

- ・入会説明会開催（定例12回+職員個別対応12件、受講者数78名）  
理解・納得・共感の得られるテキスト内容への変更・見直しを行いました。  
説明者専任化と面談同日開催など、入会手続きの簡素化及び効率化を図りました。  
（入会説明会～面談～入会手続き～入会まで1週間以内で完了）
- ・受託業務内容紹介のため、「お仕事募集一覧表」を当センターホームページへ4月より掲載を開始しました。（当面茅野エリアのみ）
- ・会員拡大に向け「庭木剪定講習会」を開催しました。（7/19～22 茅野市運動公園）  
参加者14名（茅野広域11名（内会員8名）、諏訪3名）  
新規入会者で剪定業務従事者1名
- ・各地区広報への入会説明会開催日程掲載、公共施設へのパンフレット設置、新聞広告掲載1回等、各種PR活動を積極的に行いました。

## (2) 会員安全就業と資質向上への取組み

- ・職群別安全・マナー講習会を開催しました。  
6月…剪定班研修（茅野・富士見）、7月…草取班・リサイクル班研修（茅野）
- ・安全・マナー・事故状況等に関する啓発チラシ作成及び班長会議用資料への掲載、全会員への送付により周知を図りました。（3月）
- ・しめ縄飾り講習会について、一部会員より開催要望もありましたが、コロナ感染拡大影響を考慮し、未実施としました。

## (3) 適正就業への取組み

- ・空家管理について、茅野市との「空家等の適正な管理の推進に関する協定書」締結及び「茅野市空家管理事業者登録」を行いました。（空家関連業務実績2件）
- ・就業先に対するプラスワンについて、会員入れ替えを含め対応を行いました。
- ・過去1年以上未就業会員（70名）に対する声掛け運動を行いました。  
（状況）会員数 未就業 （内訳）他就業中 療養中 就業希望 その他  
全体 631名 70名 28名 15名 10名 17名
- ・各地区別適正就業に向け、契約書未締結案件に対する書類作成・整備を行いました。
- ・就業先作業標準類の整備に向け、雛形作成及びサンプル事案整備を開始しました。
- ・各種就業先別の緊急事態対応方法に関する検討及び制定・運用を開始しました。  
対象20ヶ所、延べ120名（土曜日・日曜日・休日での就業会員へ緊急連絡先公開）
- ・就業時間適正化に向けた個別面談及び対応検討を行いました。（9名）
- ・「就業規程に関する内規」における自動車運転の年齢制限（75歳）に関する見直し検討を行いました。

## 3. 安全委員会

会員の安全・安心な就業に向けて、会員の意識高揚と事故防止策の検討を行い『事故ゼロ』を目指して活動を行いました。

就業現場をパトロールして安全指導を実施、また、事故発生時の原因究明と再発防止策を検討し対象となる会員に向け周知しました。

飛び石事故防止対策として、草刈り刃を検討し販売を開始、飛散防止ネット及び上下回転式草刈り刃の使用推進に取り組みましたが、1件の飛び石事故が発生しています。

コロナウイルス感染症拡大防止のため各種行事が縮小され、計画等の周知が十分にできませんでした。

(1)安全委員会の取組み

草刈り機による飛び石事故防止策の検討を行いました。

- 主な内容 ①事故防止に向けたパンフレットを作成し、草刈り会員へ配布しました。  
②石飛の少ない刈刃の購入販売を行いました。  
③各事務所に備えてある飛散防止ネットの活用を周知しました。

(2)就業現場のパトロールについて

7月～10月を「安全就業強化月間」と定め安全パトロールを予定しましたが、7月は雨天中止となりました。

- ・茅野地区 草刈現場で、安全作業に向け作業方法、取り組みを確認しました。
  - ・富士見地区 草刈現場で、安全作業に向け作業方法、取り組みを確認しました。
  - ・原地区 草刈現場で、安全作業に向け作業方法、取り組みを確認しました。
- 各地域で安全パトロールを実施しました。

(3)長野県シルバー人材センター連合会の指導パトロールについて

9月13日 安全・適正就業推進パトロールを実施

県シ連から2名が来場、茅野地区の剪定現場を巡視、指摘事項はありませんでした。

(4)安全標語について

本年度は24点の標語が応募され、理事会で厳正に審査して優秀作品1点、佳作2点、安全委員会賞1点が決まりました。

(5)事故の発生状況

賠償事故5件、傷害事故1件、交通事故1件、計7件発生しました。

- ・賠償事故は草刈飛び石1件、草刈り1件、剪定2件、巡視中自損1件となりました。
- ・傷害事故は切り傷1件となりました。
- ・保険対象外ですが、会員が終業先に向かうとき停車車両に追突する事故が発生しましたので、会員に認知機能セルフチェックシートを配布しました。

(6)刈刃と防護ネットについて

刈刃 引き続き石飛の少ない刈刃の販売をしています。

会員に上・下回転式草刈り刃(替刃付き)の活用をお願いしました。

防護ネット 茅野広域シルバーの3事務所へ配備されています。

今後、危険と判断したら防護ネットの使用をお願いしました。

(7)運転業務会員に運転講習会について

運転技能講習会を対象となる会員に行いました。

開催予定の福祉車両講習会、一般会員向けの交通安全の講習はコロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

(8)県シ連開催の研修会や安全・適性就業推進大会について

コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。

(9)安全就業ニュースについて(全シ協発行資料)

事故状況、特に死亡事故、重篤事故の記載内容を理解し、パトロールの際に活用しました。

◎令和4年度 「安全・適正就業対策推進の重点目標」

## 目標 “危険ゼロ”

◎安全標語

全シ協 安全就業統一スローガン

『いつまでも 働く喜び 無事故から』

◎令和4年度茅野広域シルバー人材センター標語審査

最優秀賞 『健康で 安全就業に 家族も笑顔』 小林朝治 会員

優秀賞 『ちょっと待て 手元・足元 再確認』 岩井一彦 会員

佳作 『安全は 基本動作の 積み重ね』 有賀直人 会員

安全委員会賞 『作業前 必ず行う 危険予知』 両角直一 会員

## 4. 広報委員会

- (1) 会報『八ヶ岳の風』 第72号を8月に発行しました。  
今年度は役員改選年度であり、定時総会開催の報告と共に新理事をはじめ役員全員と事務局職員の紹介記事を掲載しました。  
コロナ禍により行事の縮小や中止で話題が少ない中、正副理事長をはじめ事務局及び各委員会の皆さんに記事提供の協力をいただき、センターと会員の連携がはかれるように努めました。
- (2) 「八ヶ岳山麓だより」、第30号を1月に発行しました。  
理事長の「新年を迎えてのメッセージ」「組織市町村長との懇談会報告」の他、各委員会の活動報告や就業上の注意等、各種のお知らせ・案内、確認事項等を中心に、会員への情報発信と共有に努めました。
- (3) 地域公共施設等への会報「八ヶ岳の風」の配置等を通じ、センターのPR活動に努めました。
- (4) 10月の普及啓発促進月間に、新聞広告と共に組織市町村広報誌に入会募集記事を掲載し、新規入会者の募集を図りました。
- (5) 「八ヶ岳の風」「八ヶ岳山麓だより」の編集に当たっては、委員と印刷会社で十分な意見交換を行い、効率的な紙面づくりに努めました。